

年 組 氏名

国語の授業で原稿用紙を使用する意義としては、次のような点をあげることができます。

(2) 書かれた作文が視覚的に読みやすくなる。

原稿用紙の使い方には、どうしてもこうでなければいけないといった、はつきりしたきまりはありません。ここでは、使い方の一般的な例を紹介することにします。

一行めの三ゝ四字めくらいから書く。

二行めに書く。姓と名との間を一字分あけて、氏名の下が一～二字分あくように書く。学年・組・番号は氏名の上に一字分あけて書く。

三行めから、最初の一字分をあけて書き始める。

改行（行をかえること）をした場合は、一字下げて（行の初めの一字分をあけて二字めから）書く。

会話をかぎ（「」）を使って表す場合は、なるべく改行する。改行する場合は、最初のかぎ（「」）は必ず行の一字めに書く。

会話が二行以上になる場合は、次の二通りの書き方があり、どちらでもよい。

(1) 二行めからも、一字下げて書く。

「しめたぞ！ もつ少しのしんごうだ。あの
群れの中に一発ぶちこんで、今年こそは、
目にも見せてくれるぞ。」

(2) 二行めからは、一字下げないで書く。

「しめたぞ！ もつ少しのしんぼうだ。あの
群れの中に一発ぶちこんで、今年こそは、目
にも見せてくれるぞ。」

「つ」「や」「き」「し」「ち」「の」「や」「ゆ」「よ」

(1) 句点（。）や読点（、）は一マスの右上に書く。

(2) なかぐろ (・) は、一マスの中央に書く。

(3) 疑問符(？)や感嘆符(！)も一マスに書く。た

だし、疑問符や感嘆符を使用した場合、後ろにとじかっこ（ ）¹ がかかる場合以外は、次の一字分をあけて文を続けるようにする。また、疑問符や感嘆符と句点や読点とが同時に使用されることはない。

例
どうしたんだ？
つう？

(4) 次のような符号も一字扱いをして、一マスを使って書く。

かぎ かぎかつこ
二重かぎ

() かつこ まるがっこ パーレン

ハイフン
ダブルハイフン

やまがた
ギユメ

二重やまがた
ダブルギユメ

「かくがっこブラケット」

そでがっこ キツコー

(5) ダツシュ (――) やリーダー (……) は、二字扱

いにし、二マスを使って書く。

(6) くり返し符号（々）は一字扱いにし、一マスの中
央に書く。

ただし、行頭に「々」は書かない。そのような場合には、くり返し符号を使用しないで、前の行のいちばん下にある文字と同じ文字をもう一度書くようにする。（固有名詞は例外）

1 句点と「やーや」などが続いた場合には、一マスの中にいっしょに書く。

行頭には、句読点や次のような符号は書かない。

例。、
•
└
┐
┌

行頭にくる場合は、前の行のいちばん下にある文字と同じマスの中に書き入れる。

極端な例であれば、次のようなことも起こりうる。

例
あ
る。
し

7
数字

縦書きの場合は、漢数字を使用することが原則である。

▼作文の清書例

マンシヨンの水
一年五組三十番 高橋 真実
おとといの夕方、外から帰ったら、お母さん
が、
「おふろの水があふれているのよ。真実ちゃん
でしよう。」
と、ふろ場から大声で言いました。わたしは
「うづわ。大なんか出さなかったわよ。」
と言いながら、ふろ場に行ってみました。お
母さんと二人で調べてみたら、蛇口のところ